

## 園長が職員にのぞむもの

藤田 復生

「園長が職員にのぞむもの」は一口に言つて良き教師であつてほしいということであつて、すなわち教師としての、資格とも言えよう。

健康・明朗清潔・教育愛・指導性・良識・研究心・良き感性・創造性

先の五項は教師として、不可欠なものとして挙げ、あとの三項は望ましいものとして挙げたのであるが、幼児を対象としての教師であれば、健康であることはもとより、幼稚園の教諭は精神肉体ともに、かなり重労働であるから健康が第一であり、精神的にも肉体的にも健康な女性は最も美しいからである。また明朗清潔な性格が幼児の情緒

性に及ぼす影響は大きく、教育愛(使命感)は根本的な教師の資格であり、指導性と相まって教育の効果を挙げるものであるが、愛情も指導性も、とかく偏りやすいものであるから、広い豊かな良識をもつて融通性のある、しなやかな心で教育にたずさわつていただきたい。幼児教育は良識ある指導性の基に立つ、とも言えるからである。

次に、望ましいものとして、研究心を挙げたが、現今では社会の進歩に伴ない、時代と共に幼児も常に進歩しているので、教師も一定の考えや、一方法に安住することは許されないのであるから、研究を怠るわけにはゆかない。しかし、教師は學者でもなく、研究者でもないのであるから、対象と離れることなく、常に勉強をしてほしいのである。良き感性と創造性は、教育の基盤に立つて、それを生かすのも殺すのも教師自身であるから、常に良き感性を養い創造性のある教育を施してもらいたいと思う。

以上は、前に挙げた項目について述べたのであるが、私は、ここに一般に教師の型として三つ挙げてみたい。

- 一、教師に熱意をもつて教師になつた者
- 二、幼児に愛情を感じて教師になつた者
- 三、なんとなく教師になつた者

一、二は動機においては異なつても、園長の指導によつて、また経験を重ねることによつて、やがては良き教師に導くことは出来るが、三の型はよほどの例外でない限りは、教師として育てることは困難なものであろう。要するに、人に対しても己に対しても、ただ一つの真心を持ち、情熱を注げない人間が教育をおこなうことは、罪悪であると考えられるからである。

近來、勤務評定なるものが、世論を賑わしているが、教師といえども、一個の人間であり、完全な人格をもつものではない。いやしくも教職にある人々が、自己反省もなく、また同じ使命を持つ同志が、共に助け合い、たらざるを互に補い合い、喜びを共に分かちあうのでなければ、教育の場を自ら、潔ぎよく退くべきであらう。私は園長として職員にのぞむものを書いたが、これはすべてまた園長自身にも、一職員として望むものであることを、断言してはばかれないのである。

(ゆかり文化幼稚園長)